

緊急告知FMラジオ 「こくっち」

1. 特徴

緊急告知FMラジオ「こくっち」は真剣に自治体や住民のことを考えて作られています。よって次のような点で他社製品に無い特徴を持っております。

(1) 防災行政無線の補完として、とても有効なシステムです。

私達は、伝達の基本はデジタル防災行政無線と考えていますが、デジタル防災行政無線の戸別端末機を全戸に配布するには多額の経費が必要となります。

そこで、基幹箇所はデジタル防災行政無線を整備し、補完的に残りの全住民宅にこの安価な「緊急告知FMラジオ」を配布することをお勧め致します。

(2) 消防防災製品等推奨制度の推奨品です。

単に安いからと言って、防災商品に推奨マークの無い製品を使うことには疑問を感じます。

「こくっち」は平成19年3月、消防防災分野において有効に活用できると認められる機器として、(財)日本消防設備安全センターの推奨を受けました。

「こくっち」の裏面に貼られている推奨マークは(財)日本消防安全センターが厳重な審査を行い、優れた安全品だけに貼ることが許されるマークです。(KCTW-1000については今後申請予定)

(3) 第11回防災まちづくり大賞で消防庁長官賞を受賞した製品であります。

上記の様に安全で確実な商品であるが故に戴いた賞であります。

地域コミュニティメディアによる緊急告知FMラジオの開発と、倉敷市防災体制の連携、防災情報を確実に伝達し住民の生命を守る、安心安全のまちづくりに寄与したとして、第11回防災まちづくり大賞の防災情報部門で消防庁長官賞を受賞しました。

(4) 国土交通省「まちづくり交付金」の交付対象事業品です。

国土交通省「まちづくり交付金」をご活用いただくことが出来ます。

これは地域創造支援事業提案事業としての申請となりますが、政権交代による現政権での実績は未確認です。

(5) 国の機関も認知しています。

(財)国際通信経済研究所(RITE)がまとめた「市町村防災行政無線(同報系)の整備促進のための調査検討報告書」に、緊急告知FMラジオ「こくっち」の有用性が取り上げられています

(6) 「こくっち」は充電式電池を採用し同梱しています。

「こくっち」は停電時の対策として充電式電池方式を採用しており、標準品として充電式電池を同梱しています。

緊急告知端末にとって、災害時に高い確率で発生する停電への対策は必須事項であると私達は考え、少々割高でもこの充電電池方式を採用しました。いざと言う時に電池が放電してしまっていて、動作しない受信器は緊急告知端末として問題があると感じていたからです。

しかしながら、以後全国各地に配布が進む中、自治体や放送事業者等の要請により乾電池仕様の「こくっち」も、平成 22 年度から商品群に加えました。

(7) グループピング機能も有しています。

「こくっち」は数多くのグループピング機能をご使用頂けます。市町村合併した地域でも、その防災情報伝達地域に対応して、グループ別に緊急一斉放送や一般一斉放送が可能です。しかも難しいパソコン制御ではなく、その地域のスイッチを押すだけの簡単な方式を採用していますので、後々のメンテナンスや、担当者が交代や部署替わりしたときなどにも、即対応できる、大変使い易い便利なシステムとなっています。

(8) 運用など全般に渡りサポートします。

他の製品を販売している会社の中には「製品だけ販売できれば良い」という考え方が根強くあり、その緊急告知放送システムを如何に地元に着させ、長く将来に渡って運用・維持管理させるかを全く考えていない状況が多く見受けられます。これらの緊急告知システムは、自治体と媒体であるコミュニティFM局と住民の協力と防災に対する意識の共有が必要不可欠であることを無視している傾向にあります。結果、安く仕入れたからと住民に配ったところで、近い将来次のような事態に陥ってしまい緊急時に機能しないのではないかと危惧されます。

これは単に自治体に入札方式により端末機を売り込む方式で、入札で落札し売ってしまえば後は自治体が何とかするであろうという考え方が、その原因となっていると推測されます。

- ①自治体が配布しても、FM局の受信に不慣れな住民には、適切な端末設置がなかなかできません。
- ②コミュニティFMからの定期的な試験放送などが行われないと、この端末機は忘れ去られ何処かに置き去りにされかねないので、コミュニティFMとの共同の定期的な試験放送などの運用のノウハウが必要です。
- ③受信できないとか故障したとのクレームが自治体に集中し、通常の業務に支障が現れます。
- ④私達はこれまでの経験や実績から自治体・コミュニティFM・住民の反応を良く理解しており、将来に渡る「緊急告知システムの長期運営」のノウハウをお伝えしアドバイスも可能と自負しております。

- ⑤**J-ALERT** との接続も勿論可能であり、私達はトータル的に緊急告知放送を提案致します。**J-ALERT** に関するやアドバイスやコンサルなども必要に応じて同時に行います。開発元であるエフエムくらしきでは、平成 21 年 4 月より、**J-ALERT** との連動が既にシステム化されています。

2. 採用実績

この緊急告知FMラジオ「こくっち」は既に 7 万台以上（平成 22 年 11 月現在）の実績があり、全国各地の 20 を超える自治体で採用されています。これはコミュニティFM局からの起動地域で、ケーブルテレビ接続の自治体は含まれておりません。

不幸にも過去に大きな災害に遭われたいくつかの自治体では「こくっち」によるシステムが先導的に採用され、緊急告知放送の役割を十分に果たしています。

また、全国各地からの問い合わせも多く、各地でデモンストレーションや説明会も開かれています。

3. 選べるKCT-02CとKCTW-1000

私達は普及版「KCT-02C」の他に岡崎市との共同開発商品のハイグレード版「KCTW-1000」を新規に開発しました。自治体の立地環境や用途と予算に応じての選択ができます。

<KCT-02C>

コミュニティFM（CFM）又はFTTH（CATV）網を利用したFM放送1波受信のみの基本モデルです。詳しくはパンフレットをお読み下さい。

<KCTW-1000>

元々基本はFM放送1波専用受信ラジオでありましたが、実際豪雨災害を受けた愛知県岡崎市からの強い要請もあり、岡崎市の協力を戴き共同開発した製品です。当該地域のコミュニティFMを含むFM放送3波・AM（中波）放送3波がプリセットされているダブルチューナー方式により、一般のラジオ放送を聴いているときでも緊急放送に切り替わり、自治体からの重要な情報が受信できる回路となっています。

一方、同じダブルチューナー方式でも他社製品はダイヤル式選局のためチューニングがし難く、緊急時に地元のNHKや他の民間放送局からの情報をワンタッチで切替受信（必要なニュースなどの情報を次々とザッピングして選局すること）し難い欠点がありました。

この欠点を、新開発のKCTW-1000では改良しております。6個のプリセットボタンを押すだけで簡単選局が可能です。